

事業報告 Pickup

11/20 県民の日朗読会



三浦アナ、情感たっぷりの朗読。

平成30年11月20日、当館2階多目的ホールにて「かいぶらり朗読の集い 県民の日朗読会」を開催しました。県民の日にちなみ、本県出身の辻村深月さんのエッセイ『図書室で暮らしたい』を山梨放送の4名のアナウンサーが朗読しました。作品の中には富士山や甲府の書店、直木賞受賞のことなど山梨にまつわる思い出の場面も多数登場し、山梨県民として、読書ファンとして、大変楽しめるイベントとなりました。



石和が生んだ意外性の作家 深沢七郎

文壇の「突然変異」とまで言われた深沢七郎は、笛吹市石和町市部に生まれ、日川中学校(現日川高等学校)を卒業後、数年は東京と行き来しながら石和で生活していました。七郎の血縁者や学校の友人達も地元でいたことから、貴重な資料を寄贈していただくことができ、著作の収集・保存を行っています。ギタリストとして世に出てから、あの『楢山節考』で文壇に衝撃デビューし、世間を震撼させた事件まで引き起こす『風流夢譚』の発表後は放浪生活に入り、埼玉のラブミー農場で亡くなるまで、その生涯は意外性に満ちた衝撃そのものでした。その特異な作家深沢七郎を生んだ地にある図書館として、多くの人にその人間としての魅力を伝えていきたいです。(石和図書館館長 石倉清美)






資料室には昭和54年に自費出版した、経本形式の『みちのくの人形たち』、和綴じ本の『秘戯』も所蔵。



閲覧室の深沢七郎コーナー。

Information 2019年度これからのイベント

<p>■こどもの日のための 腹話術とパペットショー</p> <p>子どもも大人も一緒に楽しもう。パペットを動かすワークショップではパペット貸し出しもあります。</p>	<p>5月5日(日)</p>  <p>■おんがくかいぶらり21 「宮崎仁&パーカッションパラダイス」</p> <p>5月12日(日)</p> <p>甲府市在住の打楽器奏者・宮崎仁氏による打楽器のアンサンブル。</p> 
<p>■ことばのひろば① (シチリアを中心に南イタリア)</p> <p>イタリアの音楽や朗読を楽しんだり、イタリアの方と交流したりできる国際交流のイベント。</p> 	<p>■シネマかいぶらりホリデー 上映会「ディーブインパクト」</p> <p>6月2日(日)</p> <p>巨大彗星の衝突が近づき、地球は人類滅亡の危機に…。そんな危機迫る日常の中で起こる人間ドラマを、丁寧に描いた感動作。</p>

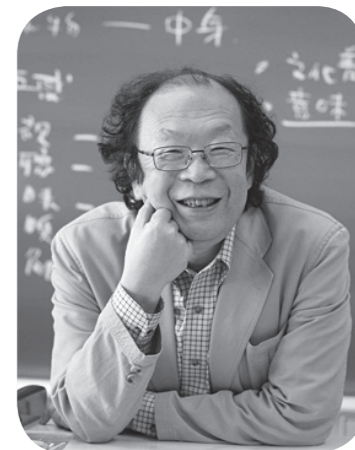
館長コラム

作る読書

読むことは書かれたことを知るだけで、とても受け身な作業だと思われていますが、そんなことはありません。

友だちと一緒に、初めての人と会ったとします。初めての人と別れた後、友だちと会った人の印象を話し合うと、本当かなというくらいに理解が違うことがあります。読書もそのようなことが起こります。

自分はこの本を読んでこう思った。でもほかの人は全然違う感想を持っている。ある人は面白かったと言い、ある人はつまらなかったという。違う印象がなぜ生まれるかと言えば、読むときに人はそれぞれ自分なりの理解をしていて、同じ材料から違う料理ができてしまうように、人は読んでいながら、自分の読書感想を個別に作り出しているのです。読むことはちっとも受け身的な行為ではなくて、とても創造的な作業なのだろうと思います。たくさんの本を読むことは、たくさんの本を作ることになるのです。



撮影/タカオカ邦彦氏

金田一 秀穂

本と人をつなぐ 第2回

贈りたい本の市

阿刀田高名誉館長の「自分が感動した本を次の誰かへ」との思いが発端となり、平成26年度から始まったやまなし読書活動促進事業、その取組の一環として毎年秋に開催している「贈りたい本の市」。今年は県内の図書館利用者から提供された約660冊を1冊100円で販売。売上はYBSグループ、NHK甲府放送局、山梨フードバンクに寄付しました。当日は県立図書館協会のメンバーが店頭で来場者と交流しながら本を手渡し、誰かに贈りたい本と読んでみたい本のマッチングで新しい読書の輪が広がっていました。



秋晴れの空の下、たくさんのお客さんでにぎわいました。



小説も絵本も、全ジャンル一律100円で販売しました。

県図書 TOPICS

「贈りたい本大賞」表彰式、阿刀田名誉館長講演会

金田一館長とのトークショーを開催!

金田一館長の大学時代、阿刀田名誉館長のお姉様が師だった縁もあり、和やかなムードでトークが弾みました。



表彰式の様子。



“読書の文化が低迷している今だが、必ず将来その人の大きな力になる”と、読書のすすめを説いた阿刀田名誉館長。

新館開館6周年の平成30年11月11日(日)、贈りたい本大賞の表彰式と講演会、トークショーを行いました。最初の「平成30年度やま読ラリー・コンプリートプレゼント贈呈式」では、今年度の「やまなし読書活動促進事業」に参加し、図書館や書店を回って読書に励んだ方の中から抽選で選ばれた方々に、金田一館長からサイン入りの辞書を贈呈しました。その後、今年度の「贈りたい本大賞表彰式」で、6歳から85歳まで5,654通の応募の中から「大賞」受賞者と「学校賞」のなかでも特に特色ある取組を行った「金田一秀穂館長賞」受賞校に、館長から賞状とサイン色紙を、保坂哲也社会教育課長から「学校賞」受賞校に賞状を授与しました。

表彰式の後には、「阿刀田名誉館長講演会&金田一館長とのトークショー」を開催。前半の講演会は「読書、今でしょ」と題し、阿刀田名誉館長から読書をする事の価値についての講演がありました。続く後半のトークショーでは、金田一館長とともに、“百科事典的に網羅された図書館の本は、人や社会の成長に貢献する”など、図書館の意義について語り合いました。

平成30年度 贈りたい本大賞

- ❖❖ 大賞 ❖❖
- おともだちへ 『おいしそうなしろくま』 加藤優亜さん (長坂小)
- 留学を目指して努力している友人へ 『アハメドくんのいのちのリレー』 萩原結花さん (山梨大学教育学部附属中)
- 祖父へ 『おじいちゃんのごらくごらく』 立川奏太さん (甲府西高)
- 今の生活から逃げ出したいと思っている人へ 『世界で一番いのちの短い国～シエラレオネの国境なき医師団～』 森澤ひろかさん (甲府南高)
- お母さんへ 『祈りのカルテ』 平田結菜さん (甲府南高)
- ❖❖ 学校賞 ❖❖
- 金田一秀穂賞 白根飯野小
- 西原小 竜王北中 田富中 韮崎工業高 甲府南高 甲府昭和高 農林高 市川高 塩山高 上野原高 富士北稜高 自然学園高

TOPIC 1

スポンサー雑誌にご注目!



いろいろなジャンルの人気雑誌がいっぱい!

1階閲覧エリアにある「雑誌スポンサーコーナー」。ここにはスポンサーとして企業・団体の皆様から提供された人気の雑誌が並んでいます。図書館ではスポンサー名や広告を雑誌カバーなどに掲示して、その活動を応援しています。平成30年に始まったこの事業は本年度も実施しており、様々な雑誌を読むことができます。スポンサーも募集しています!

TOPIC 2

図書館協力員の日常

vol.2 本の修理



なごやかな雰囲気作業室ですが、手元は真剣そのものです。

数名のチームが交代で週に1回、修理を行っています。修理は圧倒的に絵本が多く、破れてしまった絵本からは、にぎやかな子どもの声が聞こえるようです。熟練の協力員にコツを教えてもらったり、どう直そうかと皆で考えたりすることも。一つひとつ経験を積んで修理方法を学んでいます。

資料展示 報告

木喰上人と微笑仏

2018年12月7日(金)～2019年2月11日(月)

身延町出身の木喰上人が、廻国修行を行いながら創作した仏像は、独特の笑みをたたえていることから親しみを込めて「微笑仏」と呼ばれ、全国各地で大切に残されています。情報サテライト2では、生誕300年を迎えた木喰上人と、微笑仏に関する資料を紹介する展示を、山梨県立博物館シンボル展と連携する形で行いました。

(調査サービス担当 中込和寿)

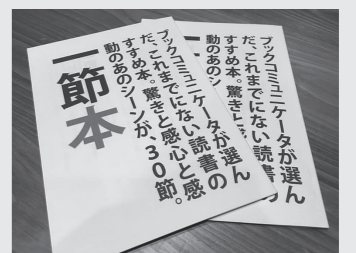


やまなし読書人

本が大好きな人たちによる「一節本」運動

つなぐNPO ほんほん堂店主 山本育夫

一冊の本の中には、おお! という出会いの一節が隠されているものです。そんな一節が5千、1万と集まったらどうということになるのだろうか? そこで、ボクはネット上に一節投稿ページをつくりました。そこにいろいろな人が投稿すると、誰かの選んだ一節が日めくりみたいに皆さんの手元に届きます。それが30節集まったら一冊の冊子にまとめよう、そして図書館に寄贈して来館者に活用していただこう! と活動を続け、現在2冊の『一節本』ができあがりました。そして幸いにもこのサイト、現在月に2万人のリーチをいただいています。この活動を山梨から全国に広げていきたいです。



つなぐ npo ほんほん堂移動編集室